

2025年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2026年4月6日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 文学部人間関係学科 教授
(氏名) 濱野 健

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	独自性の高い地域文化史研究のための電子資料構築への萌芽的研究：本学図書館 収蔵貴重書のデジタルアーカイブ化にむけて		
交付額	440,000		
共同研究者	所属・職名	氏名	役割分担等
	文学部教授	渡瀬淳子	書誌学講座の企画・運営
	経済学部教授	土井徹平	貴重資料デジタル化の企画・監修

1. 研究の目的

本研究は人文学・社会科学における資料の保存管理や電子データベース化（DB化）に向けて、本学独自の地域史・近代文化研究の基盤となるアーカイブ構築を目指すための予備的調査である。調査対象として、本学図書館所有の貴重な歴史的史料と JR 九州からの寄託史料の二点を扱った。地域の歴史的史料や文化資源に関わる研究実績を持つ申請者・共同研究者と、その学術的なネットワーク、そして史料/資料を保存管理する本学図書館と連携し、本学独自の研究活動や地域貢献に資する文化資源へと転換することをめざす。その実績をもとに、将来的には民間財団が募集する貴重資料のデジタル化、および公開支援事業への申請につなげることをめざした。

2. 研究の方法

2-1. 資料のデジタル化とDB化に関する試験的取り組み・公開ガイドラインの設定

本学で所蔵する貴重史料/資料を部分的に用いたデジタル化を実施する。史料寄託者である JR 九州の関係者も必要に応じ招聘し、企業側のコンプライアンスの把握にも努める。

2-2. 「書誌学講座（司書向け・学生向け）の実施

書誌学の専門家である佐々木孝浩氏（慶應義塾大学斯道文庫教授）を招聘し、館内収蔵の貴重書や史料の取り扱い方の講義を実施し、資料保存方法の評価を受ける。この事業は学部 FD としても実施し学内での共同研究への関心を高める。これらの史料について講師より DB 化や図書館での資料展示に関する助言を受けた。

2-3. 「図書館総合展」での研究報告(担当：申請者・研究協力者)

2025年10月に横浜で行われる図書館向けの全国的なイベント「図書館総合展」へ出席し、国内の関連団体との情報交換や意見交換を実施。他の大学図書館や、国が運営する各種資料・情報管理団体からの参加者と、本学収蔵物のDB化や公開について具体的な指針を定めるための示唆を得る。

3. 研究成果

3-1. 貴重資料のデジタル化

専門家の助言をうけ、本学で初の試みとなる収蔵貴重資料のデジタル化を実施した。デジタル化した資料については、目録を整理し図書館でのオンライン公開に向けた取り組みを継続する予定である。

3-2. 紀要論文での成果報告

2025年度の研究活動とその成果を、申請者の所属する学科紀要にて報告書として刊行した。